

令和7年度 江戸川区立大杉東小学校 学校経営方針

校長 高橋 真

「夢のある学校」づくり
～ 一人一人の子供を主語にする学校教育の実現 ～

教育目標

よりよい目標を実現する子 ○考える子 ○やさしい子 ○やりぬく子

基本方針

- ◎教育活動全般を通して、「一人一人の子供を主語にする学校教育」の実現を目指します。
- 新しい校舎及び新しい校庭における新たな教育活動を計画・実践し、「児童が通いたい」「保護者が通わせたい」「教職員が働きたい」「地域が応援したい」学校にしていきます。
- 本校の特色を大切にしながら、江戸川区教育指導課が掲げる事業を推進します。

大杉東の教職員

- 児童・保護者・地域の信頼に応える教職員
- 教育のプロとして授業で勝負する教職員
- 職層に応じた役割を果たし、「チーム大杉東」を高める教職員
- 働き方を自己改革し、人生を充実させる教職員

『よりよい目標を実現する子』の育成のために

- すべての児童が、毎日の学校生活を充実させ、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、他者に対して思いやりの心で接する態度を養うために、コミュニケーションの土台である「挨拶・笑顔・感謝」を日々実践します。
- 児童が、主体となって見直した、学習面や生活面での規律である「東ファイブ」を実践していくことで、集団生活における「あるべき姿」に主体的に向かう意識を高めていきます。
- 児童が共生社会を意識し、持続可能な社会の実現を目指すことができるように、「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」を柱にした「学校2020レガシー」に基づき、特別の教科道徳や総合的な学習の時間、「なかよし班活動」などを充実させます。
- 児童が自己に適した学習課題を設定し、その達成に向けて主体的に取り組む姿勢を身に付けるために、全教育活動を通して、目標やめあて、学習課題を明確にもたせ、活動の終わりに達成度を振り返る展開を重視し、個々の自己分析能力を高めていきます。
- 家庭学習では、保護者と連携し、個々の習熟状況に応じた課題に取り組むよう、段階的に充実させ、学ぶこと本来の楽しさを味わわせていきます。

「考える子」の育成のために

- 義務教育9年間を見通した各教科における系統性・発展性及び重点課題を常に念頭に置き、指導を確実に実践します。また、基礎・基本を確実に定着するために、放課後学習教室、家庭学習週間、東京ベーシックドリルやミライシードのドリル機能などを効果的に実施・活用します。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教科における「見通し」「見方・考え方を働かせた自力解決・学び合い」「振り返り」などの学習スタイルを確立します。特に「振り返り」の時間を大切にし、児童自身の学びを価値付けるとともに、次時への学習意欲の向上を図ります。
- 物事に対する見方・考え方や表現の仕方を身に付けるために、発達段階に応じた「考える視点」を全学級で提示します。また、児童が、考えを整理し広げるとともに、学び合いにおいて共有または議論することで考えをより深めていくために、学習内容に応じた「思考ツール」を効果的に活用します。
- 学習への興味・関心を高め、「個別最適な学び」を実現するため、一人一台端末やデジタル教材を積極的に活用します。
- 校内研究教科を「体育科」とし、児童が自らの体力や健康に関する課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成します。
- 異文化への興味・関心を高め、すすんでコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、外国語指導助手（ALT）を音声中心の会話の場面での活用にとどめず、母国の伝統や風習、食文化など幅広く紹介させるなど効果的に活用します。
- 学ぶこと本来の楽しさを味わわせるために、「生活科」「総合的な学習の時間」「読書科」を中心に、「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究的な学習のプロセスを繰り返します。

「やさしい子」の育成のために

- 一人一人の児童が、あらゆる差別や偏見を許さない心を醸成し、安心して自己実現を図れる環境にするために、教職員の人権感覚を常に磨きます。
- 「L-Gate」を活用して、その日の「できるようになったこと」や「嬉しかったこと」を中心に毎日振り返ることで、自己肯定感や自己有用感を高めていきます。また、組織的に子供たちの健全育成を図るため、生活夕会や生活指導部会、日常的な学年会等で情報を共有します。
- 特別の教科道徳では、内容項目「節度・節制」「友情・信頼」「公正・公平・社会正義」を指導の重点とし、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を通して、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を養っていきます。
- 特別活動では、集団の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるため、特別活動全体計画に基づき、望ましい集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。特に、なかよし班活動を充実させ、尊敬の念や思いやりの心、自己有用感などの育成を図ります。
- 教室で授業を受けることが困難な児童や、学習への集中力が持続しない児童も主体的に学習できる環境を整えるため、複数の特別支援教育コーディネーターや特別支援教室専門員を中心とした支援委員会の充実を図り、エンカレッジルーム（「東っころム」）を意図的・計画的に活用します。
- 障害の有無にかかわらず、児童一人一人に応じた学びや環境のユニバーサルデザイン化を一層推進します。スクールカウンセラーや巡回相談心理士、スクールソーシャルワーカーなど専門の方から

の助言を受け、インクルーシブ教育をより推進します。

- 地域を愛する心を育てるため、近隣の中学校や幼稚園・保育園と交流したり、地域行事への参加を積極的に呼びかけたりします。また、相手に応じた関わり方を意識させ、思いやりの心を育てるため、地域の施設と積極的に連携し、園児や熟年者、障害のある方々との交流などを積極的に行います。

「やりぬく子」の育成のために

- 学力の定着を図るため、ワークテスト後に「復習タイム」を設定し、解説や補充問題に取り組み、目標値の到達を目指します。学習カルテ等を活用し、学習内容のつまづきが解消するまで繰り返します。
- 児童が運動に取り組む時間を最大限確保するため、時間や場所の確保、場の工夫を行います。また、運動や健康に対する興味・関心を高め、体力向上や生活リズム向上に目標をもって取り組もうとする意識を高めるために、運動や健康に関する掲示物を工夫します。
- 児童に達成感を多く味わわせることで運動意欲の向上を図るため、学習課題の解決のために取り組む児童に対して、運動の仕方やポイントなどをより具体的にアドバイスできるように、外部講師を招聘し、児童への出前授業や教員の実技研修を充実させます。
- 児童の「食」への関心と実践への意欲を高めるため、「食に関する指導の全体計画」に基づいた指導を確実に行います。各種便りや学校HP、保護者会等で家庭での取組も呼びかけていきます。
- 日頃から自己の健康状態を知り、自らの健康を守るための衛生に関する管理能力を高めるため、家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」を基本とする生活リズムの向上を目指します。また、給食後の歯みがきやフッ化物洗口を全学年で実施し、歯の健康への意識を高め、むし歯や歯周病の予防に努めさせます。
- 危機回避能力の育成のため、区や地域と連携し、防災・安全教育を推進します。事故や犯罪への未然防止を心がける姿勢を身に付けさせるため、日頃から通学路や地域の安全への意識を高めるなど、交通安全や不審者対策の指導を徹底します。

「夢のある学校」の実現のために

- 学校と保護者や地域との考えの隔たりを解消し、連携を強化するために、学期に1回、学校評議員会を開催し、区の施策に基づく重点項目や本校の取組について評価していただきます。併せて、地域の人材を発掘し、教育活動をより充実させます。
- 教育活動を随時改善するために、学校公開や各行事における保護者アンケート、年度末アンケートや児童用アンケートを実施し、得た評価を生かしていきます。
- 児童や保護者、地域からさらに信頼され、誇れる学校にしていくため、教育活動を学校HP等で積極的に発信していきます。